

RSウイルスって
ごいの？

RSウイルス感染症って何だろう？

このところRSウイルス感染症についてのニュースを耳にすることが増えました。RSウイルス感染症は、母体から移行抗体が存在するのにもかかわらず、生後数週から数カ月の期間に最も重篤な症状を引き起こし、毎年特に都市部において流行を繰り返すことが知られています。乳幼児にとっては、新型コロナウィルス感染症よりも怖いかもしれないRSウイルス感染症について解説します。



☆RSウイルス感染症とは？

RSウイルス感染症は、病原体であるRSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも一度は感染するとされています。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。しかしながら、乳児期早期(生後数週間～数か月間)に初めてRSウイルスに感染した場合は細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

☆RSウイルス感染症の発生状況は？

以前は国内では秋ごろから流行し、冬期にピークを迎えるといわれていましたが、近年では6月下旬頃から流行が始まるようになってきており、三重県の6/21～6/27の1定点医療機関当たりの患者報告数は11.88と全国平均3.87と比較して高い水準で推移しました。7月下旬ごろから患者報告数は減少していますが、流行は通常急激な立ち上がりを見せるので今後の発生動向に注視する必要があります。

☆RSウイルス感染症はどんな症状？

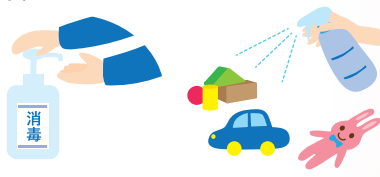
感染してから2～8日(典型的には4～6日)の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、咳がひどくなる、「ゼーゼー、ヒューヒュー」といった喘鳴、呼吸困難となるなどの症状が出現し、場合によっては、細気管支炎、肺炎へ進展することがあり注意が必要です。初感染乳幼児の約7割は、鼻汁などの上気道炎症状のみで数日のうちに軽快しますが、残りの約3割では、喘鳴、呼吸困難症状などが出現します。RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、乳幼児における再感染での発症はよく見られますが、その多くは軽い症状となっています。

☆RSウイルス感染症の治療・予防方法は？

RSウイルス感染症に有効な抗ウイルス薬はなく、対処療法(症状を和らげる治療)を行います。重症化した場合の治療は、酸素投与、輸液、呼吸管理など支持療法を行います。今のところRSウイルス感染症に対するワクチンは開発されていません。予防方法として、重篤な下気道炎症状の発症の抑制が期待できる抗体製剤の筋肉注射がありますが、低出生体重児や先天性の疾患を有しているハイリスクの患児への適用しか認められていません。

☆RSウイルス感染症の対策は？

RSウイルス感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染で発症の中心は0歳児と1歳児です。しかしながら、再感染以降では感冒様症状又は気管支炎症状のみであることから、RSウイルス感染症であるとは気づいていない年長児や成人が存在しています。従って、咳等の呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り0歳児と1歳児の接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。また、乳幼児と日常的に接する必要がある人は、咳などの呼吸器症状がある場合は飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、新型コロナウイルス感染症と同様に子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどの環境表面はこまめに消毒し、流水・石鹸による手洗いや又はアルコール製剤による手指消毒によって感染を防ぎましょう。



参考資料：RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)、国立感染症研究所 病原微生物検出情報

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、薬の相談テレホンまで ☎059-228-1113(平日9:30～16:30)

協力／ 三重県薬剤師会 〒514-0002 津市島崎町312-1 <http://www.mieyaku.or.jp/> 三重県薬剤師会 検索